

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

3

March | 2025

高橋FPの社長が知りたいお金の話

大綱で読む2025年度の税制改正(暮らし編)

3月の主要経済カレンダー

中国全国人民代表大会、ECB 理事会、金融政策決定会合、米FOMC ほか

未来予想図ダイジェスト

サイバーセキュリティ

マネークリップ

続く物価上昇 考えたい、守るための運用

『富嶽三十六景』鑑賞ガイド

山下白雨

AI

ARTIFICIAL INTELLIGENCE



写真:イメージマート

開発・構築から活用へ?

AIブームは次のステージへ

この2年間、マーケットのメインテーマとなってきた人工知能(AI)。

2025年も引き続き注目株だが、着眼点は少し変わりそうだ。今月はAIについて考えてみたい。

2022年11月のチャットGPT公開以降、株式市場のけん引役となってきたAI関連の銘柄。中でもAI用の半導体を手掛けるエヌビディアは驚異的な成長を遂げ、アップルやマイクロソフトと株式時価総額の首位を争うまでになった。

このまま半導体がけん引するマーケットが続くのだろうか? AI関連については、ブームの初期から構築に関わる半導体やネットワーク機器などのハード、そしてこれらのリソースをインフラとして提供するクラウドサービスなどが先行し、次第に人工知能を活用したサービスや、生産性の向上に視点が移ることは指摘されてきた。2025年は、その転

換点にあたるのでは? との声もあるのだ。少し詳しく見てみよう。

開発・構築から活用のステージへ

技術の進歩によって、作文から画像生成・加工、質疑応答などの様々なタスクをこなすようになった人工知能。その実体は、ネットワークに接続するデータセンターだ。より複雑な問題に素早く回答するために、高い処理能力を持ったデータセンターの建設ブームが続いている。ただし、投資額は高水準が続くものの、今後は伸び率が徐々に落ち着



く見通した。注目点は膨大な処理能力を「どのように使うか」という方向にシフトしていくことになるだろう。

さて、2025年開始早々に市場は「ディープシーク・ショック」に見舞われた。これまで米国企業が開発してきたモデルと同等あるいはそれ以上の性能の人工知能を、中国企業がより安価なコストで開発したという主張を受け、専用半導体をはじめ人工知能の開発や構築に関連する企業の株価は一時大きな打撃を受けた。開発費として計上される範囲の違いや、先行モデルを活用した「蒸留」と呼ばれる手段が用いられたのでは？などの指摘はあるが、人工知能を活用して回答を導き出す「推論」の工程を効率化しているのは確かなようだ。

言うまでもないことだが、コストの抑制は新たな技術の普及に必要な不可欠な要素と言える。安価な人工知能モデルの出現は、活用の幅がより大きく広がる契機になる可能性もあるだろう。

注目されるAIエージェント

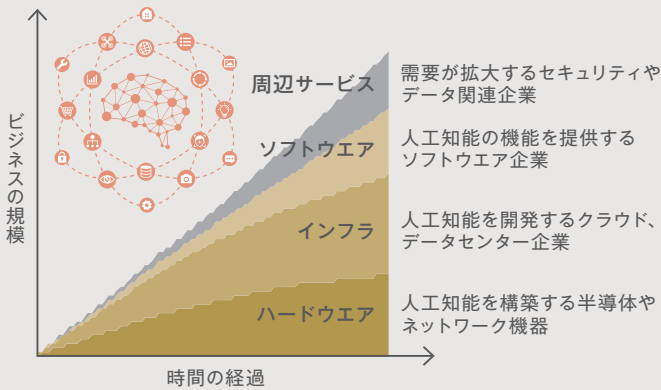
このような中で注目されているのが、AIエージェントと呼ばれるシステムだ。企業向けのアプリを手掛けるサービスナウやセールスフォース、ワークデイなどがサービスを公表している。複数のAI機能を統合的に活用し、自律的に複雑な処理をこなし、特定分野において優秀な社員のような能力を発揮することができるAIだ。例えば、顧客管理や営業支援アプリを手掛けるセールスフォースが昨年発表したAIエージェント「Agentforce」は、あらかじめ設定されたシナリオに頼らず、顧客からの問い合わせに自然な言語で24時間365日対応する。仮に同じような対応ができる人がいても、24時間365日働くことは無理だろう。

10年前には現実感を持って語られることが少なかった「人のように働く人工知能」が可能な時代に近づいていると言えるだろう。あらゆる知的タスクを人間と同等か人間を凌ぐレベルでこなすことができるAI、いわゆる汎用人工知能の実現も、そう遠い未来のことではないのかもしれない。

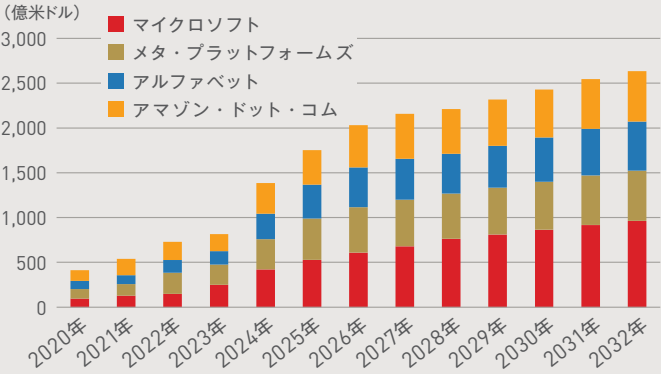
*

このように新たな展開を見せる人工知能関連。供給側であれば、プレイヤーがある程度限定されているため、投資対象の絞り込みは容易だったかもしれない。一方で、活用する側に目を向けると、その恩恵を受ける企業は無数に広がる。特定の業種において自社開発のAIを投入するケースも出てくるだろう。「勝ち組」を見つけるのが、難しくなる可能性もありそうだ。様々な企業の最新の動きを追ったレポートや、銘柄選定や売買をプロに任せる投資信託など、専門家の力を活用する方法を考えてみてはどうだろうか。 **M**

■ 図表1 AIビジネスの拡大イメージ

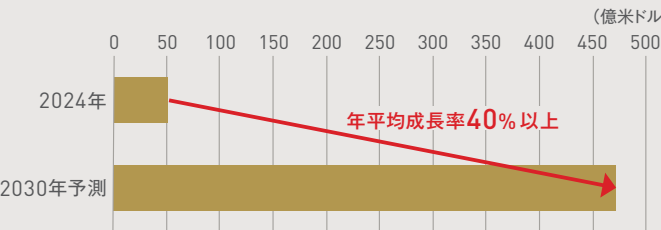


■ 図表2 ハイパースケーラーのデータセンター投資



※2024年以降はBloomberg Intelligenceの予測値。データはBloomberg Intelligenceの2024年11月20日の記事「Deep Dive: Generative AI's Disruptive Trillion-Dollar Market」を参照
(出所) Bloomberg、当社レポート「AIは社会への浸透を加速するフェーズへ(2025年1月)」より引用

■ 図表3 AIエージェントの市場規模と予測



(出所) Capgemini「Top Tech Trends of 2025(2025年1月)」、Statistaより引用

■ 図表4 ソフトウェア企業のAIエージェントに関する発表

企業	概要
セールスフォース	顧客サービス、セールス、マーケティング、コマースなど様々な領域で自律的にタスクを処理するAIエージェント「Agentforce」を発表
オラクル	財務、サプライチェーン、人事、営業、マーケティング、サービス全般にわたる業務を支援する50以上の役割別のAIエージェントを発表
サービスナウ	IT管理、カスタマーサービス、調達、人事、ソフトウェア開発などの領域で業務を支援するAIエージェント機能「ServiceNow AI Agents」を発表
ワークデイ	人事や財務関連のルーティン業務を自動化・効率化する4つのAIエージェント機能を発表

※全て2024年9月に発表されたもの。AIエージェントに関する発表を行った米国企業の一部を表示
(出所) 各社HP、当社レポート「AIは社会への浸透を加速するフェーズへ(2025年1月)」より引用